

コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

言葉の力

教室の隅に貼られた一枚の写真。そこには、友達の消しゴムを拾い「どうぞ」と差し出す子の姿と、『思いやり』という温かな文字が添えられています。何気ない日常の風景ですが、これこそが児童生徒の「心の基盤」を育む発達支持的生徒指導の姿そのものです。

かつての生徒指導は、学校の秩序維持のため、「禁止」に注力しがちでした。しかし、今の時代に求められているのは、児童生徒が自ら正しい方向へ伸びていけるよう、太陽のような「価値ある言葉」で彼らの進む先を照らすことではないでしょうか。

ただし、価値語とは、単なる「きれいな言葉」ではありません。それは、私たちが「あなたのこういう行動が、この集団を豊かにしているんだよ」というメッセージを届けるための大切な道具です。失敗した子に「それは『成長の種』だね」と声をかける、粘り強く取り組む子に「『深掘り名人』だね」と価値づける。こうした日々の微細な肯定の積み重ねが、児童生徒の中に「自分はこの場所に必要とされている」という自己存在感を育みます。

また、「価値語」の取組は、抽象的な概念（「親切」など）を具体的な行動（「友達にノートを見せている写真」など）と結びつけ、児童生徒が「これなら自分にもできる！真似したい！」と直感的に判断できる仕組みを構築できることも大きな特徴です。教師にとっても、自校の児童生徒に身に付けて欲しい力を明確化し、共有する大事な作業と言えるでしょう。

私たちに求められているのは、教卓から正論を振りかざすことなく、児童生徒と同じ目線で、教室に散らばっている「小さな価値」を拾い、名前をつけてあげることです。学校を、温かい言葉で満たされた「安心できる居場所」にしましょう。温かい価値ある言葉が共通言語となったとき、児童生徒は画面の中の荒々しい言葉に惑わされることなく、「夢」に向かって歩み出すことができる安全・安心な学校になるのだと信じています。（高橋）



生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

心を育む 「ストローク」④ ～「善さ」への注目～

「良いところ見つけ」や「ふわふわ言葉」、「グッドビヘイビアカード」
「価値語」の取組…。児童生徒に肯定的ストロークを与える取組には様々な方法がありますが、今、なぜ、そのような取組が求められているのでしょうか？連続4回でお送りした「ストローク」特集のまとめとして考えてみます。

Q.「善さ」に注目する取組の意義や効果について教えてください。

A. 近年の児童生徒を取り巻く環境は、多様化とデジタル化により大きく変容しています。こうした中で「善さ」に注目する取組が必要とされる理由は、主に以下の3点が考えられます。

＜「暗黙の了解」の限界と価値観の共有＞

現代の教室には異なるバックグラウンドを持つ児童生徒が集まっており、かつての「言わなくても分かる」という暗黙のルールが通用しにくくなっています。そのため、集団における「素敵な行動」を共通言語として明示し共有する必要があります。

＜SNSによる「言葉の荒れ」への対応＞

ネット上の刺激的・攻撃的な言葉に日常的に晒されている児童生徒は、無意識にトゲのある言葉を教室に持ち込んでしまうことがあります。学校が意識的に「人を温かくする言葉」をインプットし、環境を整備することが不可欠です。

＜タイパ重視によるコミュニケーション不足＞

効率（タイムパフォーマンス）重視の社会では、「じっくり話を聞く」「失敗を待つ」といったプロセスが軽視されがちです。「聴き上手」「成長の証」に注目する取組は、目に見えにくい価値に光を当て、当たり前前価値を高めるとともに、すべての頑張っている児童生徒に光を当て、共通の定義を持つ「価値語」の習得が、自分を守り、他者とつながるための力となります。

「善さ」に注目する取組の例

○「価値語」

「価値語」とは、児童生徒の「良い行動の写真」と「その行動の価値を表す言葉」をセットで掲示する取組です。その言葉を使うことで、自分や周りの人の価値（良さや可能性）を高めることを目指すもので、児童生徒が自らの行動をコントロールする「自己調整」のサイクルを回すための強力なツールとなります。認知心理学にお

ける二重符号化理論（Dual Coding Theory）※に基づいたアプローチとも言われています。

○「ふわふわ言葉」

友達や教師との日常的なやりとりで、心が温かくなった言葉（ふわふわ言葉）を集めて、教室や廊下に掲示します。人間関係を豊かにする言葉はたくさんある事に気づくとともに、ふわふわ言葉をもっと増やすためにはどうしたら良いかを一緒に考え、行動してみることも大切です。

○「良いところ見つけ」「グッドビヘイビアカード」

日頃の生活の中で、困っている人を助けたり、みんなのために行動したりした児童生徒に対して、その内容を書いたカードを感謝の気持ちも込めて渡す取組です。よりよい行動を可視化するとともに、強化していく効果があります。中学校以降であれば、最終的には生徒同士でカードの交換が行われることが望ましいと考えますが、まずは、教師が率先して取り組み、モデルを提示することが必要です。

○「名人見つけ」

一人ひとりの児童生徒の良さを「〇〇名人」として認定する取組です。教師だけでなく、児童生徒が友達のよいところを積極的に見つけ、認めていく活動にしていけることが大切です。学級の中に「〇〇名人」として紹介され、掲示されることで、児童生徒はあらためて自分の「善さ」に気づき、自信をもって行動することができるようになります。

これらの取組も「ストローク」の一つです。同時に人権教育にも深く関わっています。当課作成の『人権を尊重する環境づくり 誰もが過ごしやすい学校を目指して』も参考にしてください。（右の二次元コードからダウンロード可）

※二重符号化理論に（Dual Coding Theory）について

○脳の2つのルートを活用：脳は情報を「言語（言葉）」と「非言語（画像）」の別々のルートで処理します。言葉と写真をセットにすることで、脳内でこれらが強力にリンクし、記憶の定着率が飛躍的に高まります。

○画像優位性効果：視覚情報は処理が速く、直感的な理解を助けます。文字だけで「静かに歩こう」と貼るよりも、実際にきれいに歩く仲間の写真に価値語を添える方が、児童生徒は瞬時に「目指すべき姿」をイメージでき、自発的な行動に繋がります。

POINT

「善さ」をみんなで共有し、よりよい行動を増やす

人権を尊重する
環境づくり

誰もが過ごしやすい学校を目指して



岡山県教育庁人権教育・生徒指導課



資料のダウンロードはコチラ